

図書館情報学キャリアアッププログラム

図書館情報学キャリアアッププログラム

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01MB50A	デジタルコンテンツ論I	1	1.0	1・2	春AB	土5,6		阪口 哲男, 村井 麻衣子, 高良 幸哉	ICTの発達を背景に図書館サービスのデジタルコンテンツ化、著作権に関する近年の話題、Webサービスシステムのセキュリティなどの話題を議論する。	図書館経営管理コース、講義科目
01MB50B	デジタルコンテンツ論II	1	2.0	1・2	秋AB	月7,8		辻 泰明, 白石 信子, 宮本 聖二	博物館はメディアである、博物館が提供するものは情報であり、テレビに似ている(梅棹1987)と唱えられて以後、インターネットの普及に伴い、メディアとしての博物館は急速に発展しつつある。リアルな博物館とヴァーチャルな博物館の双方において、情報メディアに関する知識と理解が強く求められている。本講義は、インターネット展開における映像リテラシーの重要性を鑑みつつ、博物館と情報メディアに関し、その現状と展望について、さまざまな観点から考察する。	東京キャンパス開講; 毎年日本語で授業; 図書館情報学専門科目 OATW156と重複履修不可。 OATW15Fと同一。 図書館経営管理コース、講義科目
01MB52A	図書館サービス論I	1	1.0	1・2	春A	月7,8		高久 雅生, 加藤 誠, 永森 光晴	公共図書館を中心に各種の図書館情報サービスについて解説し、サービスの意義とその具体的方法を検討するとともに、知識基盤社会における図書館情報サービスの課題と望ましい展開方法について論じる。	図書館経営管理コース、講義科目
01MB52B	図書館サービス論II	1	2.0	1・2	春AB	木7,8		吉田 右子, 三波 千穂美	本講義ではパブリックな場における情報サービスに関して、特定のコミュニティおよび社会制度の2つの位相からそのサービスをとらえ、参加者/利用者のエンパワーメントに焦点を当てて議論する。前半は生涯学習をテーマとして、情報・メディア・文化へのアクセスを保障する公共図書館サービスを、コミュニティ、社会的公正性、リベラル・マルチカルチュラルイズムの観点から検討する。後半は企画・決定、検討・手順書作成、広報・準備、実施・評価のプロセスを通じて、テクニカルコミュニケーション実践のための理論と方法を学ぶ。	東京キャンパス開講; 毎年日本語で授業; 図書館情報学専門科目 OATW152と重複履修不可。 OATW15Bと同一。 図書館経営管理コース、講義科目 第1-9回はオンライン(オンデマンド型)、第10回はオンライン(同時双方向型)
01MB554	文献講読I	2	2.0	1・2	春ABC	応談		図書館情報メディア専攻指導教員		演習科目
01MB555	文献講読II	2	2.0	1・2	秋ABC	応談		図書館情報メディア専攻指導教員		演習科目
01MB557	特別演習a	2	2.0	2	春ABC	応談		図書館情報メディア専攻指導教員		演習科目 特別演習aとbを併せて履修することで特別演習に相当
01MB558	特別演習b	2	2.0	2	秋ABC	応談		図書館情報メディア専攻指導教員		演習科目 特別演習aとbを併せて履修することで特別演習に相当
01MB559	特別演習a	2	2.0	2	秋ABC	応談		図書館情報メディア専攻指導教員		演習科目 指導教員に指示された学生のみが支援室窓口で履修申請すること
01MB560	特別演習b	2	2.0	2	春ABC	応談		図書館情報メディア専攻指導教員		演習科目 指導教員に指示された学生のみが支援室窓口で履修申請すること
01MBE02	学術コミュニケーション論	1	2.0	1・2	秋AB	土5,6		逸村 裕, 松林 麻実子	本講義では、研究者が行う学術コミュニケーションとそれを支える学術情報流通制度について概観するとともに、その現状と諸課題に関する理解を深める。前半では、研究活動と学術コミュニケーションの関係、学術メディアの電子化による学術コミュニケーションの新しい動き(学術雑誌の変化、オープンアクセス・オープンサイエンス概念の出現)について学ぶ。後半では、学術コミュニケーションを支える基盤としての学術情報流通制度(学術雑誌のビジネスモデル、大学図書館の研究支援サービス、学術情報ネットワーク)について学ぶ。	東京キャンパス開講; 毎年日本語で授業; 図書館情報学専門科目 OATW154と重複履修不可。 OATW15Dと同一。 対面
01MBE03	デジタルライブラリ	1	2.0	1・2	秋AB	火7,8		宇陀 則彦, 和氣 愛仁	デジタルヒューマニティーズは人文書資料にデジタル技術を適用することで、伝統的手法では得られなかった知見を得ることを目的としている。講義では、テキストを資源化するためのテキストエンコーディング、絵図から作成当時の文化や社会を考察する画像分析、歴史文書に自然言語処理手法を適用する文書解析、古地図や古文書の記述を地理情報システムにマッピングする手法、画像ファイルを簡単に流通させるための規格であるInternational Image Interoperability Framework(IIIF:トリプルアイエフ)等について解説する。	東京キャンパス開講; 毎年日本語で授業; 情報インタラクション専門科目 OATW137と重複履修不可。 OATW13Cと同一。 オンライン(同時双方向型)

01MBE11	情報分析	1	2.0	1・2	秋B	集中	井上 智雄, 三河正彦	本講義では、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)について解説する。より円滑なインタラクションを実現するために必要となるHCIの基本的な考え方をはじめ、システムとして構築するための設計、実装、評価手法の概要について学ぶ。さらにユーザインタフェース(UI)、ロボティクス、コンピュータビジョン、認識技術等のシステムをインテリジェント化するための要素技術に加え、人間のコミュニケーションや情報共有を支援、拡張、活用するソーシャルコンピューティングに関する研究開発の最新の動向についても解説する。	東京キャンパス開講：毎年日本語で授業：情報インタラクション専門科目；教職科目 OATW134と重複履修不可。OATW13Bと同一。12/3, 12/4, 12/10, 12/11, 12/17, 12/18 オンライン(オンデマンド型) 12/3 (土) 3, 4, 5限 12/4 (日) 3, 4, 5限 12/10 (土) 3, 4, 5, 6限 12/11 (日) 3, 4, 5限 12/17 (土) 3, 4, 5限 12/18 (日) 3, 4, 5, 6限
01MBE12	情報活用	1	2.0	1・2	秋AB	土3,4	佐藤 哲司, 関 洋平, 森嶋 厚行	大量の情報へのアクセスは、ビッグデータ時代の鍵となる技術であり、その重要性は益々増大するばかりである。本講義では、情報アクセスの中心的な技術である情報検索、情報管理・統合技術、自然言語処理について、最先端の技術動向を交えながら説明する。これらの領域における最先端の話題として、WWWを舞台としたコレクティブインテリジェンスや共創知、クラウドソーシング、ソーシャルメディアにおける情報統合についても解説し、情報アクセス技術のこれまでとこれからの研究や社会応用の展望について理解を深める。	東京キャンパス開講：毎年日本語で授業：メディアサイエンス専門科目；教職科目：研究群共通専門基盤科目 OASO704と重複履修不可。OATW11Aと同一。その他の実施形態 第1回はオンライン(同時双方向型)、第2-10回はオンライン(オンデマンド型)
01MBE13	情報表現法	2	2.0	1・2	秋C	火・金 7,8	後藤 嘉宏, 鈴木佳苗, 時井 真紀, 長谷川 秀彦, 叶少瑜	本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。	東京キャンパス開講：毎年、日本語で開講；方法論的基盤科目 OATW215と重複履修不可。OATW21Cと同一。その他の実施形態 第1-2回は対面、第3回はオンライン(オンデマンド型)、第4回は対面、第5-9回はオンライン(オンデマンド型)、第10回は対面
01MBE21	学校図書館経営	1	2.0	1・2	秋AB	金7,8	鈴木 佳苗, 辻 慶太, 小野 永貴	本講義では、生涯学習社会における学校図書館や公共図書館、ネットワーク環境などを含むアナログからデジタルまでの学習環境の在り方、これらの学習環境におけるメディアの利活用や教育等を統合的に扱い、その基盤となる理論やモデル、実践について学ぶ。具体的には、メディアを活用して効果的に情報を収集・判断・創造・発信するために必要とされる「メディアリテラシー」の概念、メディア教育や学習環境の整備の重要性、現状や課題等についての理解を深め、今後の展開等について考察する。	東京キャンパス開講：毎年日本語で授業：図書館情報学専門科目 OATW158と重複履修不可。OATW15Hと同一。オンライン(オンデマンド型)
01MBE32	ドキュメント管理	1	2.0	1・2	秋AB	土7,8	白井 哲哉, 江前敏晴, パールイシェフ エドワルド	2011年の東日本大震災以降、歴史的に重要な文書記録の救出・保存が日本各地で取り組まれている。また日本では2011年の公文書管理法施行以後、行政文書の管理と保存が国の重要課題となった。本講義では、日本と欧米諸国におけるアーカイブ施設(文書館・公文書館)、アーカイブズ資料(歴史資料・行政文書)及び専門職アーキビストとその養成の具体的事例に基づき、アーカイブズ学の全体像を論じるとともに、図書館の類縁施設であるアーカイブズ施設に関する基礎知識を獲得する。	東京キャンパス開講：毎年日本語で授業：図書館情報学専門科目 OATW155と重複履修不可。OATW15Eと同一。オンライン(オンデマンド型)
01MBE44	ライブラリー・ガバナンス論	1	2.0	1・2	春AB	土3,4	池内 淳, 大庭 一郎, 小泉 公乃	本講義では、主に公共図書館を対象として、図書館を効果的に管理・運営していくための経営手法について学ぶ。経営学におけるさまざまな理論、原則、概念、技法などについて解説するとともに、それらを非営利組織体である図書館に応用することの展望と限界について検討する。さらに図書館経営のみに止まらず、図書館の社会的役割、政策・法制度、人的資源管理、サービス計画と評価、予算獲得と資金調達、広報、図書館連携(官民連携や学社連携も含む)などについて学ぶ。	東京キャンパス開講：毎年日本語で授業：図書館情報学専門科目 OATW153と重複履修不可。OATW15Cと同一。オンライン(オンデマンド型)

01MBE52	研究の手引き	2	2.0	1・2	春C	火・金 7,8		森継 修一, 落合陽一, 辻 泰明, 中井 央, 綿抜 豊昭	まず、それぞれの担当教員が専門とする研究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や調査・実験の方法、研究成果の公表方法などの特徴について解説する。その後、修士論文執筆を最終目標として、文書作成、研究倫理、プレーストリーミング、協調作業、プレゼンテーションの5つのテーマについて学ぶ。(取り上げるテーマの順番は変更になる可能性がある。) さらに、研究の遂行と論文作成のために有用な各種のツールの使い方を演習を通して学ぶ。これらを通して、研究者となるための基礎的知識と技能を身に着ける。	東京キャンパス開講: 毎年、日本語で開講: 方法論的基盤科目 OATW211と重複履修不可。OATW21Aと同一。その他の実施形態 第1-2回はオンライン(同時双方向型)、第3-10回はオンライン(オンデマンド型)
01MBE53	調査分析法	2	2.0	1・2	春C	月・木 7,8		森田 ひろみ, 李昇姫, 大庭 一郎, 関 洋平, 村井 麻衣子	近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探索し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を旨とした学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。	東京キャンパス開講: 毎年、日本語で開講: 方法論的基盤科目 OATW213と重複履修不可。OATW21Bと同一。オンライン(オンデマンド型)